



文教ソリューション特集に寄せて

文教ソリューション事業本部長

久嶋一男

教育機関を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、経営トップによる大学改革・教育改革が積極的に進められております。

ブロードバンドやWeb技術の進展により、キャンパスIT環境の高機能化が急速に進みつつある今日において、これら先進技術を駆使した魅力的でユビキタスなキャンパスの実現こそが、志願者確保につながる大変重要な課題であります。

2001年にe-Japan戦略が策定されて5年が経過しました。IT革命により情報流通のコストとスピードが劇的に改善され、世界規模で非常に密度の高い情報のやり取りが可能な時代になってきました。情報が瞬時に全世界を駆け巡る今日、グローバルな競争環境下で戦っている日本経済において、ITを中核とする知識基盤社会を支える「知の拠点」としての教育機関の果たす役割はその重要性が一層増してきております。

社会の成熟化とともに大学の大衆化が進み、学生の学力低下が問題視されはじめており、IT立国日本の実現に向け、世界に通用する高度IT人材の育成とともに、海外との連携によるグローバル人材の育成が急務であります。

一方、急速に進展している少子高齢化がもたらす影響も様々であります。

社会人の入口である18～21歳人口に対し、出口人口（60～63歳）を見てみますと、団塊の世代が一斉に定年を迎える2007年を機に、2010年には何と860万人となり、入口人口（490万人）のおよそ2倍に達するようです。

2050年には、1.5人の生産年齢者（15～64歳）で、一人の高齢者（65歳以上）を支えていかなければならない時代が到来すると言われております。

日本の活力を支えていくために、まさに国民一人ひとりの「知的生産能力」を高めていくことが不可欠であり、同時に団塊の世代による「新たなうねり」にも着目していかねばなりません。

政府IT戦略本部が2006年1月に発表した「IT新改革戦略」では、「次世代を見据えた人的基盤づくり」や「世界に通用する高度IT人材の育成」が重点施策として掲げられており、富士通は多様な社会の要請に応えうる、ITを駆使した優れた高等教育システムの構築に取り組んでいく必要があります。

昨年は、立教小学校様の安心・安全や、千葉工業大学様の手のひら静脈認証による学生情報システムなど、先進技術を駆使した様々なソリューションをご提供させていただきました。

本特集では、学生サービス向上のためのWeb履修、統合的ユーザ管理を可能とするアイデンティティマネジメント、教育の情報化を支援するe-Learning、情報発信拠点として重要性が高まる図書館ソリューション、デジタルアーカイブを活用した博物館・美術館など、様々な分野における先進的なソリューションを紹介してまいります。

今後も環境変化をいち早くとらえ、あらゆる発想と行動の原点をお客様に置き、文部科学省様をはじめ政府関係機関が求めるこれらの価値実現に向け、オンリーワンソリューションの提供に心掛けてまいります。